

29【P2】Ⅱ-310

医療薬学教育における医療介護福祉実習の役割 -平成 15 年度の概要-
○嶋 剋人¹, 石田 志朗¹, 岡野 善郎¹(徳島文理大薬)

【目的】病院・保険薬局実習中に学生が患者と直接的かつ持続的に接触する機会が少ないため、患者への対応を通して医療を理解することは極めて困難と考えられる。研究室では、学生が患者や要介護者と接することを目的に、平成 11 年度より医療薬学教育の一環として医療介護福祉実習を導入している。本年度の概要について報告する。

【方法】大学院：徳島赤十字病院において 8 月上旬の 1 週間、外来患者の診療科への案内および病棟でのボランティアを行った。学部 3 年生：8 月上旬に徳島県社会福祉協議会主催による 4 日間のサマーチャレンジボランティアワークを老人介護・心身障害者関係施設で行った。10 月には、大学近郊の老人介護施設で食事介助、服薬介助やレクリエーション補助等を行った。

【結果・考察】大学院生：外来患者の案内や病棟でのボランティアを通して患者に対する思いやりの重要性を認識、患者状態の把握や対応を体験することができた。病院ボランティアは、薬剤師ではない立場で医療と接し、医療を理解する機会であったと考えられる。学部 3 年生：施設利用者とのコミュニケーションは、高齢者では比較的スムーズであったのに対し、心身障害者に始めて接したため障害者の理解と応対には苦慮したと思われる。介護福祉施設での実習は、サマーチャレンジボランティアワークで介護やコミュニケーション方法の指導を受けていたためスムーズであった。また、見学ではなく施設職員との共同作業で、体験を通じて学習できることから学生の意欲も高かった。介護福祉施設での実習は、高齢者・障害者の理解やコミュニケーション方法の習得としての役割を十分に持つものと考ええる。